

SEA TRIAL

SUPER MAXI LOUNGE

BALI 4.1

カタマランの世界に新風が吹いている。

発信源はフランスの名門ビルダーが立ち上げたニューブランド「BALI(バリ)」。

これまで当たり前だと思っていた事象に疑問を持ち、より使いやすくアレンジする、すなわちそれが技術革新への道。

常識を覆す技術革新、まさに驚きのアイデアの数々。キーワードは「より快適に、よりラグジュアリーに」。

イノベーションの数々を体現する新世代カタマランセーラー「BALI 4.1」に触れた。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada, Masakatsu Sato

special thanks: WINCKLER www.sports-w.com

City Marina VELASIS www.velasis.com





驚きのギミックはメインサロンのリアドア。通常のスライドアームも備えた壁面全体が、まるでスウィングアップガレージのように上へと開き、天井に収納される。アフトデッキとメインサロンは一体化し、開放的なオープンラウンジに。寒い時期はクローズすれば、エンクローチャーいらずで、サロン内は完璧にエアコンの効いた快適空間となる。ギャレーはサロン前側中央。アフトの右舷後端にはBBQグリルも備える。

広く使い勝手の素晴らしいパウラウンジ、壁面全体がスウィングアップする画期的なリアドア フランス CATANA の独創的イノベーションが満載された新世代カタマランセーラー「BALI」

近年、比較的大型のマルチハルボートは世界的に流行している。日本でもここ10年余りの間に、モーターボート、セールボートを問わずマルチハル、主にカタマランハル(双胴船)のモデルが多数見られるようになってきた。従来、マリーナでの停泊スペースが広くなくなってしまったために敬遠されがちだったが、カタマラン対応のマリーナも増えてきており、日本の海でもその優雅な姿を見受けられるようになった。カタマランは、何と云ってもモノハル(単胴船)にはない広さと安定感が魅力だ。一方で、スピード性能に



ついても、太平洋横断の最短記録やアメリカズカップなど、ヨットレースの最高峰を見ればカタマランがいかに優れているかが分かるだろう。もっとも昨今のトレンドとなるカタマランタイプのモーターセーラーの場合は、速度ではなく、その広大な居住空間が大きなメリットとなっている。

そういったカタマランボートビルダーはフランスを中心に多数存在しているが、中でも異色と言えるのがフランスの名門マルチハルビルダー「CATANA CATAMARANS(カタナ・カタマランズ)」だ。同社が創業したのは1984年。カーボンとアラミド繊維を駆使したトランスオーシャンカタマランセーラーを一貫して建造し、世界的に高く評価されてきた。CATANA CATAMARANSは30周年を迎えた2014年にニューブランド「BALI CATAMARANS(バリ・カタマランズ)」を立ち上げ、「CATANA GROUP」となる。今回紹介するのはBALI CATAMARANSの最新鋭「BALI 4.1」である。BALIはCATANAのフィロソフィーを受け継ぎながらも、より汎用性を高めたシリーズ。現在は全長11.93mの「4.0」から16.80mの「5.4」までのレンジにラインナップを揃えている。なお「4.1」というのはほぼ41フィートに相当している。



「BALI」の革新性は事前に知識として仕入れていたが、実際には、想像を超えていた。まさにイノベーションを体現した存在だ。カタマランならば当然と思われていたトランポリン(双胴の中央に張られたネット)を前後ともFRPのデッキでクローズ。幅6.72mというワイドなデッキを持つ41フィート艇の登場である。広大なバウデッキは、巨大なサンパッドとテーブルセットがまるでヨットクラスかと思ふようなオープンラウンジ空間とな

る。メインサロンのフロントウィンドウ中央が大きく開放できるため、メインサロン前部のカウンターギャレーからサーブもできる。左右のサイドデッキはアクセスしやすい広さが確保されており、アフトデッキには大型ベンチシートと右舷脇にオプションのバーベキューグリルも配置される。

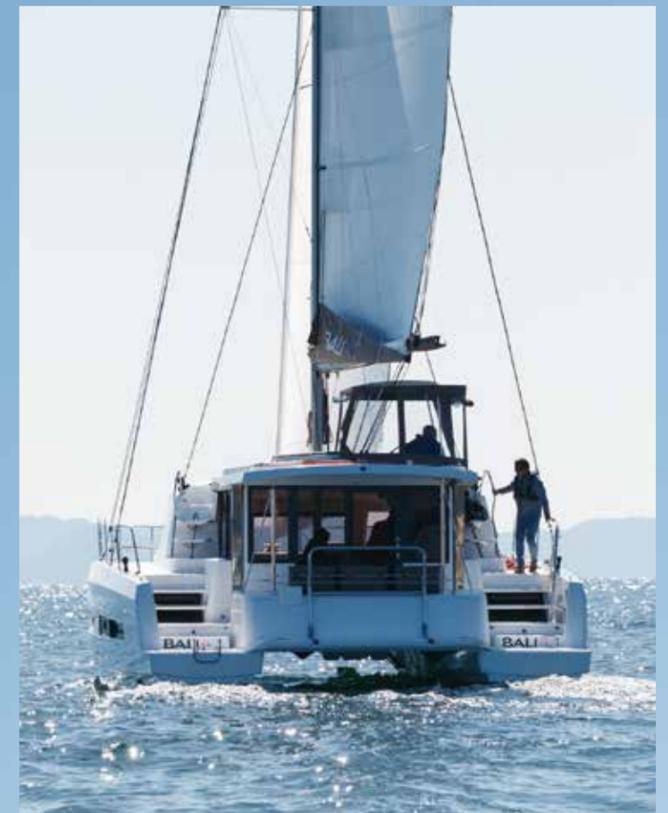
そして唾然とさせられるのがメインサロンのリアドア、というよりも後部の壁面。壁面全体がスウィングアップガレージドアのようにがばっと上へ

と開くのだ。通常のリアドアも着いているため、クローズでもアクセスに支障はないが、全開することにより、メインサロンを風通しの良いオープンラウンジ化できる。エアコンを効かせたメインサロンも良いが、自然の風を体感したい時には最高の贅沢だ。またエンクロージャーを使用せずにクローズできる点も非常に便利だ。

メインサロンは後部に大型ダイネットスペース、前部に大型冷蔵庫などを備えたカウンターとギャレー、さらにオートパイロットなどのコントロール系が配置されている。ラットやスロットルの類いは無いが、リモコンを用いればメインサロン内でのポートコントロールも可能だ。

メインサロンの前寄り両サイドから両舷のハルへとアクセスできる。片舷に2キャビン、4キャビン4ヘッドの仕様から、左舷側1キャビン1ヘッド+右舷側2キャビン1ヘッドまでキャビンバリエーションは豊富に用意されている。例えばチャーター船としての使用を考えると4キャビンは理想的だし、オーナーズルームを広く取りたいければ3キャビン仕様が魅力だろう。

近年のヨーロッパのボートは右舷着岸を想定してスターボードサイドデッキを広く取っているモデルが多いが、「BALI 4.1」も基本的に右舷着岸を想定して設計されている。ヘルムステーションはフライブリッジ右舷寄りに設けられ、右舷側はフォアからアフトまでデッキの際が見やすく工夫されている。





6.72mのビームいっぱいに広がる広大なパウデッキ。エレベーター式のフロントウィンドウ越しにメインサロンのギャレーと繋がり、フードやドリンクのサーブを受けられる。ソファ下部は広大なストレージで、フェンダー類やさまざまなシートも収納可。フライブリッジは右舷側にヘルムステーション、左舷側には快適なサンベッドが備わる。

またもう一つ驚いたのが、EUの基準であるCEカテゴリーのクラスA 認証を取得している点だ。これはビューフォート風力階級8 (34 ~ 40kt) 以上の風、4m以上の波高に耐えうるというクラス。CATANA グループ内ではエントリーユーザー向けに開発されたというBALI CATAMARANSだが、その実はプロフェッショナルユースと言っても過言ではないほどのポテンシャルを持っている。セーリング特性も優れており、帆走の出足は

軽く、風上50度程度まで快適に登る。セルフタッキングジブも標準で、ショートハンドでも安全にセーリングが楽しめるだろう。機走の場合、2基のエンジンそれぞれ4L/hの消費で7~7.5ktの想定。400Lの燃料タンクを擁しており、理論上、機走だけでも無補給で50時間、350マイル以上走行できる計算だ。ロングレンジクルーズへの夢も広がる一艇である。なおフラッグシップの「BALI 5.4」も、年内に日本上陸を果たすそうだ。P.B.



BALI 4.1

全長 12.35 m
 ウォーターライン 11.60 m
 全幅 6.72 m
 喫水 1.12 m
 重量 9 ton (light load)
 11.8ton (maximum load)
 トータルセールエリア 105.5m²
 メインセール 48m²
 ソレント 33m³
 エンジン 2× YANMAR 20 HP (オプション 40HP)
 燃料タンク容量 400L (オプション 800L)
 清水タンク容量 800L
 CEカテゴリー A 10 persons
 問い合わせ先 ウィンクレル TEL: 045-681-0104
 www.sports-w.com



3キャビン仕様から4キャビン仕様までバリエーション豊富なステートルーム。チャーター用途にも対応でき、オーナーの好みや用途に応じて選べる。取材艇は右舷のハルをまるまるオーナーズステートとした3キャビン仕様。明るく淡いカラーのインテリアが「BALI」を感じさせる。